

## ハイフローセラピー（HFT）の使用実態に関する多施設共同研究

### 1. 研究の背景

ハイフローセラピー（以下、HFT）は最大 60L/分までの加温加湿されたガスを広径の鼻カニューラで直接鼻咽頭内に送り込むことの出来る機器である。様々な生理学的効果を持つことが証明されており、その効果としては大きく分類すると、①鼻咽頭の死腔のウォッシュアウト、②吸気抵抗の低下、③PEEP（Positive End-Expiratory Pressure：呼気終末陽圧）効果、④呼気終末の肺容量の増加、⑤加湿、⑥線毛機能の改善、が挙げられる。

臨床的にもこれまで様々な有用性が国外より報告されている。急性呼吸不全に対しては酸素療法と比較して SpO<sub>2</sub> や呼吸数など様々なパラメータが改善し、また人工呼吸管理を必要とする率を低下させることなどが報告されている。

本邦でも近年急性呼吸不全を呈する成人患者に使用される頻度が増えてきている。しかしその臨床的なエビデンスは不足しており、また導入指針や中止する基準も定まったものはないため、臨床医やスタッフが現場でそれぞれの判断において用いているのが現状である。これらの現状を踏まえて、他施設による調査を行うことにより、HFT の使用実態を把握することは重要と考えられる。

### 2. 研究の詳細

今回の試験では、HFT の使用実態を調査することを目的とする。多施設において HFT を用いた症例を後ろ向きに検討することにより、HFT の対象、効果、安全性などを評価する。

### 3. 目標症例数と研究実施期間

当院にて下記期間中に HFT を使用した症例 5 例

研究期間：2016 年 3 月 1 日 ～ 2016 年 3 月 31 日

### 4. 研究実施者及び連絡方法

研究責任者 地域医療機能推進機構金沢病院 内科 診療部長 早稲田 優子  
研究分担者 同病院 内科 副院長 渡辺 和良

Tel：地域医療機能推進機構金沢病院 （代表）076-252-2200